

キリスト教文化研究所 2018 年度活動報告

運営委員会

2018年度は、4月12日、5月17日、6月14日、7月12日、9月28日、11月8日、12月6日、1月17日、3月14日の計9回開催。主に、土曜自由大学（秋のコース）、「キリスト教文化研究所年報」、本研究所担当科目「人間論」・「キリスト教と文化」についてなどの話し合いが行われた。また、6月15日（金）、16日（土）にかけてノートルダム清心女子大学にて開催されたカトリック大学キリスト教文化研究所協議会に竹田教授と吉岡教授が出席し、後日その報告がなされた。

土曜自由大学（秋のコース）

品川区との共催で、10月6日、13日の13:20～16:10、本学240教室において、各回2回の講演を開催した。今年度は「食べる」を総合テーマとして、各専門分野の講師陣よりそれぞれの視点からお話しいただいた。講師及び演題は、講演順に次の通り。本学スペイン語スペイン文学科長野太郎教授「旅をすることと食べること」、ヘルスサポート研究会カナン代表・健康教育コンサルタント新田真理先生「若さを保つ食の実際～科学としての栄養学と聖書から学ぶ～」、本学文化史学科藤本猛専任講師「『ごちそう』の中国史」、カトリック司祭米田彰男氏「聖書における食事」。出席者は延べ320名。

研究会

12月14日（金）18:10～17:30、本学121教室において、本学坂田奈々絵専任講師による研究発表「シュジェールと古典文学：『ルイ六世伝』を中心に」が行われた。

合宿研修

3月13日（水）～14日（木）、レクトーレ葉山湘南国際村にて実施。2日間にわたり、本学原田雅樹教授による「物理学の解釈学的現象学」について、本研究所客員所員鶴岡賀雄先生による「魂の『境地』の変容の『ものがたり』としての『霊の賛歌』」について、研究発表が行われた。

続いて、来年度の年間スケジュールについて話し合いが行われた。中でも、土曜自由大学について活発な意見交換がなされた。参加者は5名。